

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き、会議を開きます。

（午後 2時08分）

---

◎議案第22号の上程、説明、質疑、討論、採決

○議長（稲葉昭宏君） 日程第5、議案第22号 平成26年度松崎町温泉事業会計予算についての件を議題といたします。

議案の朗読は省略して、提出者から提案理由の説明を求めます。

○町長（齋藤文彦君） 議案第22号は、平成26年度松崎町温泉事業会計予算についてです。

詳細は担当課長をして説明します。

（生活環境課長 齊藤昌幸君 提案理由説明）

○議長（稲葉昭宏君） 以上で提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。

質疑を許します。

○1番（藤井 要君） 温泉会計の方の収益が6674万円ほどですか、その中で、先ほどちょっとまつぎ荘の関係も言いましたけれども、先ほどは水道ですけれども。

今回、まつぎ荘の温泉の方が688万円、そして、プールの方で諸経費込み2200万円で、だいたいこれは光熱費が650万円くらいあるから、たぶん400万円くらいがプールの温泉の使用料か、ちょっとわかりませんが、そうすると、これは、まつぎ荘と合わせて1000万円からの使用料になりますよね。

そうした場合に、1000万円だと6分の1というか、20パーセント・・・、何パーセントかあるんですけども、これは将来的にはやっぱりそういう脱皮を図るという意味で、これはもう負のトライアングルみたいな、まつぎ荘、プール、それがもう潰れちゃうと言っては・・・、松崎町の経営ですので、潰れませんけれども、もう負のトライアングルで、ここで収益を行ったり来たり、賄っているような状態、いつかこれはどこかがちょっと「もう、よそう」と「温泉も工事費がうんとかかっちゃうな」といったときのこともやっぱり将来的に考えていかなきゃまずいんじゃないかと思うんですけども、町長、そこら辺はどうですか。

○町長（齋藤文彦君） 温泉会計もこれから本当にギリ貧でいくわけですけども、これをどうするかといったら、やっぱり温泉の加入促進をしなければいかんかなと思っているところで

ございます。

それで、いまいろいろ内部で検討していきまして、温泉の権利を期間限定でやって、加入金もそれに合わせたやつをやったらどうだろうかというのをやって、いま内部で話をしているところでございます。ある程度、3年とか5年に限定して、それに合わせて加入金をはらうというようなやつをやれば、結構増えてくるのではないかなと思っているところです。これは法律的に合うかどうか、ちょっとわからないものですから、ちょっと話をしてもらっていますけれども、これがどのように進むかというのは、ちょっと……。ちゃんとしたことができたら、皆さんにお示ししたいと思いますので、加入促進以外はないなと思っているところでございます。

○生活環境課長（斉藤昌幸君） 先ほどの質問の内容の正確なパーセンテージとか、金額について、参考までにお答えしたいと思います。平成24年度の実績ではありますけれども、まつき荘の売上は635万3000円、B & G プールの売上が442万2000円、2つ合せますと、約1070万円、率にしますと16パーセントという現状でございます。

ですから、藤井議員がご心配されるとおり、確かに、この辺の大きな2本の柱を失うことは非常に温泉会計にとっても大変なことでございますので、一生懸命頑張って、我われとしましても、この辺の2つの会計が頑張っていただけるように期待せざるを得ないと思います。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○1番（藤井 要君） これは質問じゃないと言えば、質問じゃないですけども、確かに、そのとおりだと思いますよ。

ですから、町長の答弁も先ほどありましたけれども、お互いに、タコの足じゃないですけども、お互いに食いつぶしているようにならないように、本当にこれは、町長、気を引き締めて、あと4年間ありますので、期待していますので、頑張ってくださいよ。

○町長（齋藤文彦君） 気を引き締めて、頑張ってやりたいなと思っているところでございます。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

○9番（一瀬寿一君） 藤井議員の関連にもなりますが、この予算でいくと、確かに、予算が非常に今回は利益率がないと・・・、よくこれもわかりますけれども、しかし、一向に以前からやっぱり改革をしようとしてこなかった。私はそここのところをちょっと言いたいんですけども、当時の加入したまんまでずっと来ていますよね。だから、その辺は、当初個人には

200万円で売ったと、営業には300何万円ですか、これを私は当時からもう2口にしてもらえないか。それで、営業も半分にしてもらえないか。こういった形の中でやはり戸数を増やさなければ、これは採算が上がって来ないと、一向に・・・先ほどもB & Gとかまつぎ荘がなかったらどうなるか。そこまでいきますけれども、しかし、やはり個人のお客さんを増やさなければ。それで、使用料がそこに出てくるわけですね。使用料が。やはり数を持たないと、今の360件くらいではとてもやっぱりもたないと思うんです。今後ですね。

やっぱりこれは500も600も、やっぱり件数を増やして、毎月の使用の料金をやっぱり増やさないと、これは温泉の方ももってこない。そのあいだにまたいろんな修繕が出てきて、食い込んでくるというようなことですから、課長にも町長にも、もう一度聞きます。

○生活環境課長（斉藤昌幸君） 確かに、現行の料金について、高さ、景気の低迷等によりまして、平成4年の改良事業をやって以降・・・、そのときにはバーンと入ったんですけれども、それ以降伸びが悩んで、結局現在の状況になっていて、新たな加入というものがなかなか出てこないという状況です。

先ほども町長が述べましたとおり、期間限定かつそれに応じた加入金も安くして、いかに加入のしやすさという施策をこれから議会等にも提案した上で、その辺の施策を展開した上で、収益を上げる方策をこれからも取っていきたいと考えております。

○町長（齋藤文彦君） いま課長が答えたとおりで、いま内部で、どうしたらこの現状を打破できるかと、それは、本当に温泉の加入促進をしなければいかんということで、皆さんが入れるような形にしなければいかんということで、いま内部で話し合っています。

近い将来、いろいろな・・・、出てきますので、皆さんにまた示して、意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） ほかに質疑はありませんか。

（発言する者なし）

○議長（稲葉昭宏君） 質疑がないようでありますので、質疑を終結したいと思います、これにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（稲葉昭宏君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○議長(稲葉昭宏君) 反対討論なしと認めます。

次に、本案に対する賛成討論の発言を許します。

○9番(一瀬寿一君) 本案に賛成をいたします。温泉企業は非常に、今までに基金もだいぶ作ってございまして、借入もなく、正常に運営されて、こういうふうに思っておりますけれども、だんだん今回の予算はだいぶ利益も少なくなっている。先がちょっと心配になりますけれども、今後、やっぱりいろんな工夫をして、収益が上がるような方法をもっともって考えて、大いに温泉事業を活躍させていただきたいと思います。

よって、本案に賛成いたします。

○議長(稲葉昭宏君) これをもって討論を終了します。

これより議案第22号 平成26年度松崎町温泉事業会計予算についての件を挙手により採決します。

本案は原案のとおり決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

(挙手全員)

○議長(稲葉昭宏君) 挙手全員であります。

よって、本案は原案のとおり可決されました。

暫時休憩します。

(午後 2時31分)